

NHK E テレ番組「クラシック音楽館」を観て

2021年7月18日（日）21：00～23：00

アルゼンチン・タンゴの巨匠ピアソラ大特集
永久保存版

お宝映像！▽ピアソラ本人のリベルタンゴ
とアディオス・ノニーノ ▽バンドネオンの
小松亮太とチャラン・ポ・ランタンの小春が
魅力を熱弁 ▽日本初演！シンフォニア・ブ
エノスアイレス

（以上、新聞のテレビ番組表より転記）

◇アストル・ピアソラ、今年生誕 100 年を
迎えたアルゼンチンタンゴの巨匠です。名前
を知らなくても、「リベルタンゴ」なら知っ
ているという人も多いのでは（小春）

◇「リベルタンゴという曲がタンゴ界に新風
を吹き込んだ」みたいなことがいま世界中で
まことしやかに言われているけども、今日は
ピアソラさんの 100 年記念なので、私、勇
気を持って本当のことを言います。「嘘です」
なので、今日は、ピアソラさんは実際問題何
をしてきた人なのかということ掘り下げて、
真実をドバーンとぶちまけてしまおうかな
と思っています。（小松亮太）

といった「チャラン・ポ・ランタンの小春さ
ん」と小松亮太さんのナレーションで番組は
進み、アストル・ピアソラの生涯を紹介され
ます。

アコーディオンを練習している人たちの
多くの方が練習曲に選び、聴くことも多いの
で、『これであなたもピアソラがわかっちゃ
いますよ』のナレーションに筆者も興味を持
ち、2 時間番組を最後まで観てしまいました。
ご覧になった方も多かったことと思います。

《ピアソラの世界がわかる 2 時間》

ピアソラの前に「タンゴ」って何？
最初に小松さんいわく、こてこてのタンゴと
してお薦めの「Loca（ロカ）」からスタート。

オルケスタ・ティピカと呼ばれる、バン
ドネオン（4）、バイオリン（3）、ヴィオラ、
チェロ、コントラバス、ピアノの総勢 11 名
の楽器編成です。（1950 年後頃まではこれが
基本形で演奏されていたんだそうです）

《タンゴって、アルゼンチンの伝統音楽とか
民謡とかって思っています？それは大間
違い》（ナレーションより）

19 世紀、アルゼンチンはスペインから独
立します。イタリア、ドイツ、北欧、ロシア
などから移民を受け入れます。ブエノスアイ
レス近港の「ボカ」と呼ばれる地域の安酒場
に集まったときに一緒に歌って踊れる歌が
なかった。いろんな国から集まった移民が
「自分たちの音楽が欲しい」と作ったのがタ
ンゴなのだそうです。

だから、イタリアっぽさとか、スペインっ
ぽさとか、ドイツのバンドネオンのサウンド
が入ってきて不思議な音楽が醸成されてい
く。そんなブエノスアイレスだけで聴かれて
いた音楽だった。その証拠に、タンゴの名曲
は“ブエノスアイレス”だらけ。

《タンゴリズムコーナー》

ここでは、○フォービート ○ジュンバ ○
ハバネラ ○シンコバ、大きく分けてこの 4
つのリズムを解説。

チャン チャ チャ チャっていうのが、
これがすごく単純なんだけれどもタンゴの
基本でフォービートです。

で、フォービートをちょっと大げさにした
のが「ジュンバ」。「ジュン バ・ジュン バ」
って聞こえるからだそうです。

そして、「タッター タッタ ウン（休符）」
「タッター タッタ ウン（休符）」ってい
うのが出て来たら、全部シンコバです。とい
うことで、ハバネラとフォービートの効いた

「エルチョクロ」を聴きます。

次に、話はピアソラが誕生した 1921 年に移ります。タンゴの黄金期と言われる 1920 年代で、4 歳でニューヨークに移住し 11 年間を過ごします。タンゴとの出会いのきっかけは、生粋のアルゼンチンタンゴファンの父「ピセンテ」が息子をタンゴミュージシャンにしようと、8 歳のピアソラにバンドネオンを買って来ます。父はタンゴのレコードを聴かせるんだけど、ニューヨークには刺激になるいろんな音楽があってタンゴはあまり好きではなかった。

ところが、15~6 歳の頃ラジオからタンゴの演奏が流れてきたて“なんだこれは”ってショックを受ける。演奏は「エルビーノ・バルダーロ楽団」で、新しいタンゴに進むべき道を見つけるのですが、そこには、タンゴはこうあるべきだともとのスタイルを受け継いでいこうとする人たち、それに対してもっと変えていいんじゃないか、と新しさを求めて尖がった演奏をしていた人たち、また、大衆を意識した路線(踊りのタンゴ)、また、芸術的な聴くためのタンゴを生み出そうとした人たちがいた。ということで「エル・チョクロ」で聴き比べてみます。で、ピアソラはどこにいたかって言うと、この時期は尖がった人たちの中に挑発的な音楽をやっていた。

「リベルタンゴ」に登場するこの 1・2・3 / 1・2・3 / 1・2、というリズム、実はこのリズムは、孤高の先輩たちから受け継いだものだったのです。♪♪♪ / ♪♪♪ / ♪♪ 「3・3・2 のリズム」と呼ばれ、ピアソラの代名詞とも言われていますが、ピアソラが編み出したものではありません。

《バンドネオン講座》もありました。

コードの弾きやすさを追求した楽器だから、1 音ずつド、レ、ミを弾こうとするとバラバラの位置になるとの解説も。

ピアソラは 28 歳で初めて立ち上げた楽団を解散させてしまい、33 歳、クラシックの作曲家を目指してパリへ向かいます。そこで、名教師のナディア・ブーランジェ氏に出会います。ブーランジェにはタンゴミュージシャンであることを隠していたピアソラですが、自作のタンゴを演奏したところ、「あなたは決してタンゴを捨ててはいけないは」と言われた言葉で 1 年後、タンゴに戻る決意でアルゼンチンに帰国したものの、1950 年代の若者たちはエルビスプレスリーなどのロックスターに夢中になり、タンゴ離れが進んでいました。

で、帰国後エレキギターが中心になっている「ブエノスアイレス八重奏団」をつくる。しかし、保守的なタンゴファンからは「大ブーイング」を浴びます。

ピアソラ 37 歳。満足できなくてニューヨークへ行き極貧生活の中で活動を続けて 1971 年に九重奏団を結成、しかし途中で心臓発作に襲われて解散。そんなピンチを乗り越えて 53 歳で「リベルタンゴ」の誕生です。ここで名曲「リベルタンゴ」は生まれました。

「ピアソラの曲には、クラシック、ジャズ、ロック、と年代によって影響を受けた音楽が違うので、いろんなスタイルがあるのが魅力なんです」(小松亮太)

この後、バンドネオン解体ショーがあった。

《タンゴはクラシックっぽい》

フランスで作曲を学んだピアソラが 30 歳で「シンフォニア・ブエノス・アイレス」を発表。この曲が作曲のコンクールで 1 位に輝くのです。今回ピアソラ生誕 100 年を記念して日本初演されることになり、バンドネオンのパートを小松亮太さんと北川聡さんが演奏した約 26 分の動画を観て終わります。

ピアソラの世界を知る 2 時間番組でした。今年、来年とピアソラの音楽を聴き直してみるのも良いかもしれませんね。(文責:編集部)